

1 生徒の実態及び課題の設定～英語に関する事前アンケート結果から～

(1) 事前アンケート

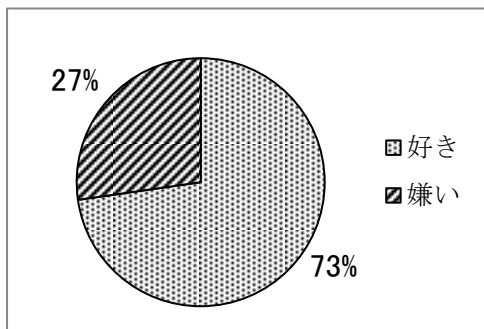
英語学習に対する意識を調査するために、平成 24 年 6 月に、以下のようなアンケートを実施した。今回のアンケートの調査対象は第 2 学年 33 名で、英語Ⅱを 4 単位、ライティングを 2 単位履修している。

<実施したアンケート項目>

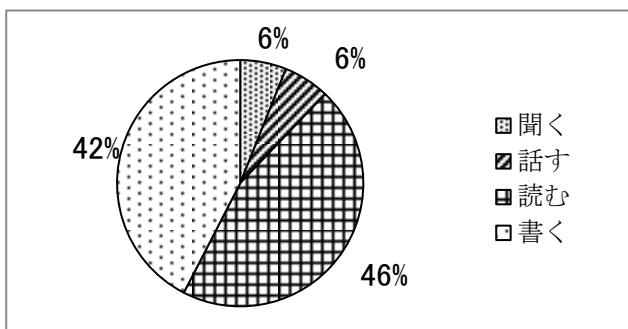
- 1 あなたは英語が好きですか？
- 2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なことは何ですか？
- 3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なことは何ですか？
- 4 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするために授業を英語で行うことについて、あなたはどのように思いますか？
 - ①先生がたくさん英語で質問したり、説明したり、指示をしたりすることについて。
 - ②自分が英語で質問に答えたり、ペアワークをしたり、発表をしたり、意見を書いたりすることについて。
- 5 英語の授業の中でどのようなことをしてほしいですか。(自由記述)

<アンケート結果>

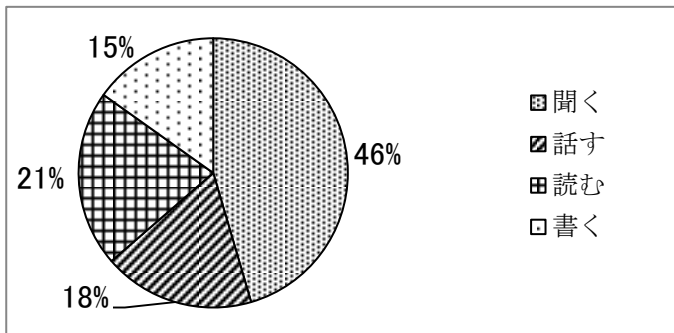
1 について



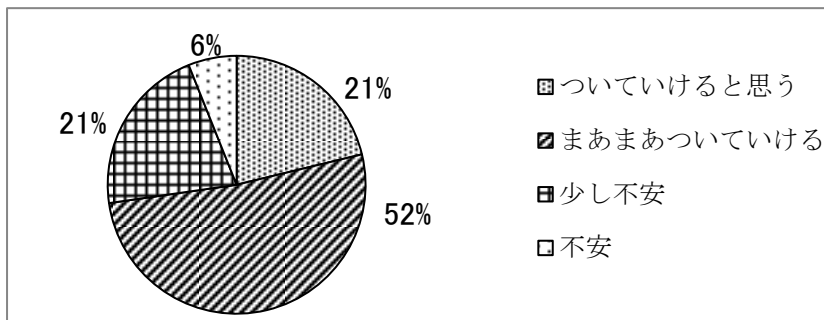
2 について



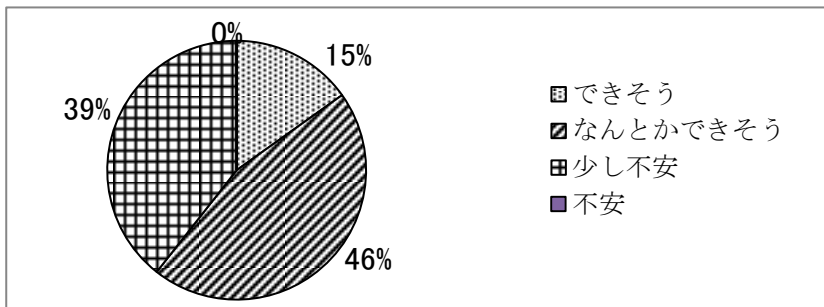
3 について



4①について



4②について



5について<主なものを抜粋>

- ・ペアワークなどで、相手の言っていることが分かるようになる練習。
- ・ペアワークとかグループワークとか、英語で意見などを伝えること。
- ・上手く発音できるようになるような練習。
- ・長い文章を書けるようになる練習。
- ・一つの単語を使って、例文をたくさん書く練習。
- ・長いリスニングでも聞き取れようになる練習。
- ・英語のニュースを聞き取れるようになりたい。
- ・長文を読めるようになる練習。
- ・文法。

アンケートの結果、73%の生徒が英語を「好き」と回答した。日頃授業に前向きに取り組む生徒が多いことから、英語を学ぶことに対して意欲的であると言える。「読む」ことを得意とする生徒が46%で、最も多かった。これは「英語の学習は読んで訳すこと」という思いが生徒の中に強くあり、「訳せること＝読めること」と思っている生徒が多いためであると考えられる。また、「書く」ことを得意とする生徒が、42%となっているが、これは授業中に、新出語句などを用いて英文を書かせるという活動を毎時間実施しているためではないかと考える。一方、「聞く」ことを苦手とする生徒が46%であった。これまでに、授業では、英語を「聞く」場面を多く設定するよう心掛けてきたが、生徒にとっては効果的ではなかったと言える。生徒に何かを聞かなければならない必要性を感じさせることができず、ただ何となく聞いているという状態が多かったのではないかと、また、聞いたことを、書いたり別の人に話したりして伝えるというような統合的な指導が不足していたのではないかと考える。教師が英語を使用することに対して全体の73%の生徒が「ついていけると思う」「まあまあついていけると思う」と前向きな回答をしていた。一方、4②

の自分が英語を使用することに対しては、やや数値的には減少するが、61%の生徒が「ついていけないと思う」「まあまあついていけないと思う」と回答していること、「不安である」と回答した生徒が誰もいなかったことから、生徒が英語で行う授業に対して大きな抵抗を感じているわけではないことが分かった。

(2) アンケートから考える課題と到達目標

授業を英語でのコミュニケーションの場面とするためには、「聞く」ことに対する苦手意識を減らすことが大きな課題である。まずは、教師が、分かりやすい英語を用いることに留意しながら英語の発話を更に増やし、インプットの量を増やすような指導の工夫が求められる。また、授業中に行う活動の中で、「聞く」必要性を強調し、生徒に「今なぜ相手の話している英語を聞かなければならないか」ということを意識させたり、得意と感じる生徒が多い「書く」活動へとつなげる統合的な指導をしたりすることも必要である。さらに、英問英答などを含めたペアワークやグループワークを多く取り入れ、「話す」ことへの抵抗感を減らすことも重要である。

このような指導を通して、英問英答も含めた英語でのやりとりやペアワークなどを授業の中心とすることで、英語を聞いたり話したりする活動を日常化し、相手の意見を聞いて理解できる力を身に付けさせることを到達目標とした。また、聞き取ったことや読み取ったことに対して、自分の言葉で答えられる力や、自分なりの意見をもつことができるような力も身に付けさせ、得意とする「読む」ことや「書く」ことを更に伸ばしながら、4技能を総合的に伸ばさせることも目標とした。本文の内容理解の定着、深化を図るため、本文の内容に関する発表をさせるという最終的なゴールを設定し、それをレッスンの初めから生徒に示しながら段階的に指導することで、目標をもって活動に取り組めるような授業を目指した。

2 本研究の流れ

本研究では、Lesson 3 The Wonderful World of Smells と Lesson 4 Me, Quit? Never において、「導入」「内容理解」「表現活動・定着活動」として下表にある9の事例を授業の中で実践した。

使用教科書：PROMINENCE English II（東京書籍）

	導入	内容理解	表現活動・定着活動
L3	・実物を用いての英語による Oral Introduction (事例1)	・新出単語・熟語を用いての英作文 (事例3) *各パートで実施 ・英英辞典を活用しての新出単語・熟語の確認(事例4) *各パートで実施	・ Show and Tell (事例8)
L4	・ Wikipedia (英語版) を用いての英語による Oral Introduction (事例2)	・ T/F Question による内容理解 (事例5) *各パートで実施 ・ ワークシートを用いた内容理解 (PLOTをつかむ) (事例6) *L3で実施 ・ ワークシートを用いた内容理解 (場面や心情の変化をつかむ) (事例7) *L4で実施	・ 自分を語る(事例9)

3 実践内容

(1) 「導入」に関する活動

事例1 実物を用いての英語による Oral Introduction

ア 指導手順 (Lesson 3 の指導例)

- (ア) 5種類の制汗スプレーを示しながら、その香りについて英語で説明をする。
- (イ) 5人の生徒を指名し、英語でやりとりをしながら、それぞれにどの香りの制汗スプレーがいいかを選ばせる。
- (ウ) 実際にスプレーをし、香りの印象や、気分が変わったかなどを英語で尋ねる。最初は教師が尋ね、次は生徒に尋ねさせる。
- (エ) ペアにさせ、生徒に制汗スプレーを使っているかどうかをお互いに尋ね合わせ、英語でやりとりをさせる。
- (オ) 制汗スプレーを使っている場合は、どのような香りか、なぜその香りを選んだのか、その香りはどのような効果があるかを英語で話し合わせる。
- (カ) 二つのペアでレポートをさせる。自分のことではなく、自分の相手のことについて、もう一方のペアに英語で報告をさせる。

イ 留意点

- (ア) 制汗スプレーは紙で覆い、生徒には何の香りかは見て分からないようにする。
- (イ) 教師はなるべく易しい英語を用いるようにする。また、本文に出てくる新出単語や熟語を意図的に使うようにする。
- (ウ) 「ア 指導手順」の(ウ)では、教師だけが質問し、指名された生徒だけが答えていると生徒の発話量が増えないため、生徒にも質問させるようにする。
- (エ) 最後はレポート形式の活動にし、相手の言うことを聞いて、それを別の人に話して伝えさせて、「聞く」と「話す」を統合的に指導する。

生徒にとって身近な制汗スプレーを題材にしながら、香りの種類や効果について話し合いをさせた。生徒は楽しそうにやりとりをしていた。また、自分の相手のことを別のペアにレポートをする活動を実施したので、正確に伝えるために、やりとりの最中に聞き返したり、確認したりする姿が見られた。



事例2 Wikipedia (英語版) を用いての英語による Oral Introduction

ア 指導手順 (Lesson 3 の指導例)

- (ア) 教師が13歳だったときの出来事を英語で紹介する。その後、生徒をペアにし、13歳の時の出来事や思い出を自分のペアに英語で伝えさせる。
- (イ) ベサニー・ハミルトンが片腕でサーフィンをしている写真を見せる。なぜ彼女がこのような状態でサーフィンをしているのかをペアで考えさせる。

- (ウ) 二つのペアでレポートをさせる。自分たちが推測した内容を別のペアに英語で伝えさせる。
- (エ) ベサニー・ハミルトンに関する英語版の Wikipedia を生徒に配布し、ベサニーが 13 歳の時に何が起こったのかを読み取らせる。
- (オ) 読み取ったことを、ワークシート〈資料 1〉に、英語で時系列にまとめさせる。

イ 留意点

- (ア) 「ア 指導手順」の(イ)では、教科書を閉じさせ、教科書と異なる写真を見せながら、英問英答をする。
- (イ) 生徒に「続きを知りたい、読みたい」という気持ちをもたせるように、教科書の内容を全て説明しないようにする。特に、ベサニーの心情については触れず、出来事だけを扱うようにする。
- (ウ) 生徒が読みやすいように、Wikipedia の文章はそのまま使うのではなく、必要な箇所を抜き出し、難しい表現は書き換えたりする。
- (エ) ワークシートの答えは、本文を読み進めながら確認するようにする。

予習をしてきているため、すでに本文を読んでいる生徒が多いこと、説明しすぎると本文を読む必要がなくなることの 2 点に注意して活動を実施した。Wikipedia は一人でじっくり読ませた後、分かりにくかった箇所などをペアで確認させた。教科書には載っていない情報などもあり、生徒は興味をもって読んでいた様子であった。あえてワークシートの答え合わせはせずに、本文でその箇所がでてきたときに確認することにして、本文を「読む」意欲を損なわないような工夫をした。

〈資料 1〉

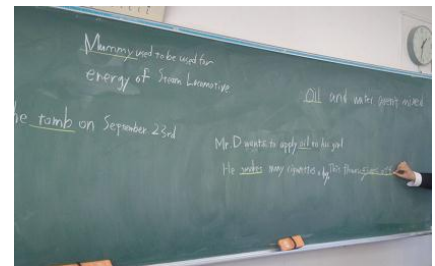
Bethany Hamilton		
Year	Bethany's age	Occurrence(what happened)
1990 (February 8)	0	• She was born in Hawaii.
2003 (October 23)	13	• She was attacked by a tiger shark and her left arm was bitten off.
2003 (November)	13	• She decided to return to surfing and less than one month after the accident she returned to her board.
2004 (January)	13	• She entered a major competition
2004	14	• She wrote about her experience in autobiography "Soul Surfer."
2011	21	• A docudrama feature film "Soul Surfer" was released in America.
2012	22	• "Soul Surfer" was released in Japan.

(2) 「内容理解」に関する活動

事例 3 新出単語・熟語を用いた英作文

ア 指導手順

- (ア) 新出単語・熟語の発音を練習する。
- (イ) 新出単語・熟語の中から、用法の難しいものや生徒が間違えそうなものを教師が選び、板書する。
- (ウ) 板書されている新出単語・熟語を用いた英文を作らせる。
- (エ) ペアで、お互いに作成した英文を比べ合う。
- (オ) ボランティア、又は教師が指名した生徒に自分が書いた英文を板書させる。
- (カ) 教師、又は他の生徒が板書された英文に対してコメントをする。



イ 留意点

- (ア) 作成する英文の内容は、できるだけ身近なものにさせる。
- (イ) 英文はあまり長すぎないものにする、ただし、単文ではなく重文または複文にするこ

とを指示する。

この活動は単語や熟語の意味を理解させるだけでなく、実際に文章の中で使えるようにさせることを目標にしたものであり、各パートの導入の際に必ず実施している。英文を板書させる生徒は、当初は教師が指名していたが、徐々に生徒が自発的に板書するようになった。教師や他の生徒の反応を楽しみにしたり、励みにしたりしているようであった。あまり簡単すぎる文章だと他の生徒から「もっと、もっと」などという声かけがあったり、印象に残る文だと賞賛されたりする場面も見られるようになった。英文を作るときに、記録として書くのではなく、相手に伝えるために書くということを何度も指導した。生徒もそのことを意識するようになり、英文のレベルも少しずつ上がってきている。

事例4 英英辞典を活用しての新出単語・熟語の確認

ア 指導手順

- (ア) 新出単語・熟語を5～6語選び、英英辞典のそれぞれの語の定義を教師が読む。
- (イ) 教師が読んだ定義はどの語のものだったかをノートに書かせる。
- (ウ) 再度定義を読みながら、一斉に語を答えさせる。

イ 留意点

- (ア) 英英辞典の定義が難しいときは、教師が分かりやすい語で言い換える。
- (イ) 書いた語は、自分でスペルを確認させる。

「聞く」ことについての指導の一つとして考えた活動である。クイズのような形式であるため、難しいものでも真剣に考え、生徒は積極的に取り組んでいる。すぐに分かる語と、なかなか分からない語とを意図的に盛り込み、飽きさせないような工夫をしている。生徒から自分たちも出題したいという声があったため、生徒自身に定義を考えさせて全体に出題させたり、ペアで出題させ合ったりするなど、様々な方法で実施している。事例3と事例4を組み合わせると各パートの導入で実施している。

事例5 T/F Question による内容理解

ア 指導手順

- (ア) 最初に教師が口頭で T/F Question を出題し、生徒に答えをメモさせる。
- (イ) ペアでお互いの解答を確認させる。ペアで解答が合わない場合もあるので、確認後、再度口頭で T/F Question を出題する。
- (ウ) 本文の内容を確認する。
- (エ) 最後に T/F Question の答え合わせをする。誤答が多いと予想される質問は板書する。

イ 留意点

- (ア) T/F Question はレベルを変え、生徒が答えやすい質問と、よく考えなければ答えられない

い質問を混ぜる。

(イ) T/F Question は、本文のポイントになるところ、生徒が読み違いをしやすいところを出題する。

T/F Question を出題することで、生徒にどこを意識して読めばよいのかを示すことができ、内容理解の一助になった。また、最後に答え合わせを行うことで、内容理解の確認にもなった。

事例6 ワークシートを用いた内容理解 (PLOT をつかむ)

ア 指導手順 (Lesson 3 Part 2 での指導例)

- (ア) ワークシート<資料2>を配布し、空所を埋めさせる。
- (イ) ペアでお互いの解答を確認させる。解答が合わない場合には、教科書をもう一度読み直し、再度解答させる。
- (ウ) 英問英答の形式で全体で答えを確認する。

イ 留意点

- (ア) ワークシートに英語を日本語で説明する箇所を設け、本文の和訳はしない。

具体例が列挙されている内容であったため、英語で PLOT をつかみやすいと考えて実施した。生徒にとっては取り組みやすい内容であったこと、英文の文章自体の難易度があまり高くなかったことなどから、迷うことなく正解にたどりついた生徒がほとんどであった。生徒の様子を見ると、ワークシートの中で日本語を書かせる作業は必要なかったと考える。

<資料2>

Lesson 3 "The Wonderful World of Smells"
Part 2 SR 2- Name: _____

1. Make sentences with new words!
(You have to use the word "detect" or "noble".)

Nobles used ox-drawn carriages.
There were a lot of slants in the sea.

2. Fill in the blanks in English, and summarize in Japanese!

Animals	How to use "Smell"
Habu (ハブ)	Look for mice (ネズミを探す)
Slant (サシ)	Find food, smelling its blood. (血に引かれて餌を探し出す)
Salmon (サケ)	Return to the river in which it was born by detecting its smell. (生まれ故郷の川に匂いで戻る)
Mice (ネズミ)	Smell out habu and other dangerous animals. (ハブや他の危険動物を探し出す)
Fish (魚)	Old fish can smell danger in the school and sense danger from the smell of the old fish. (古い魚は学校の匂いで危険を感じ、古い魚の匂いで危険を感じる)
Male moth (オスガ)	A male moth can smell a group of female moths up to ten miles away. (オスガは雌ガの群れを10マイル先まで匂いで探る)
Cats and Dogs (ネコ、イ)	Mark their own living space with their smell. (匂いで自分の生活空間をマークする)

3. How about humans?
Ex1] Ancient Japanese noble people wore fragrant kimono when they met their loved ones.
(昔の日本の高貴な人々は、愛する人と会うときに、香り高い着物を着た。)

Ex2] Why may Cleopatra have been loved?
---Because she was fragrant with the smell of the thousand of roses on the floor of her room.
(なぜなら、彼女が部屋の床のよりの何千本のバラの香りから匂っていたから。)

事例7 ワークシートを用いた内容理解 (場面や心情の変化をつかむ)

ア 指導手順 (Lesson 4 Part 4 での指導例)

- (ア) 事例5の本文の内容に関する T/F Question をする。
- (イ) ワークシート<資料3>を配布する。ワークシートの設問 (英問英答、場面の絵を描く) に答えさせる。
- (ウ) 第1段落に関しては、登場人物の行動から、そのときの心情の変化を推測させ、英語で書くという設問にも答えさせる。
- (エ) 自分が考えて書いた主人公の心情の変化をペアで伝え合う。

イ 留意点

- (ア) 設問に答えながら、本文に書かれている内容を確認させ、段落で場面が変わっていること

を認識させる。

- (イ) 主人公の行動の裏にある気持ちの変化を読み取ることが重要なので、ワークシートにそのための設問を作成する。

段落が変わるところで、大きく場面が変わっているため、生徒の理解の助けとなるようこの活動を実施した。また、その場面転換の前後から、本文に書かれていない主人公の心情変化を推測させ、理解を深めさせたいと考えた。生徒は本文を何度も読み返しており、本文中の一つの単語などから、主人公の気持ちの変化を読み取る努力をしていた。事例9につなげる活動として有効であった。

(3) 「表現活動・定着活動」に関する活動

事例8 Show and Tell

ア 指導手順 (Lesson 3 での指導例)

- (ア) ワークシート<資料4>を配布し、自分が紹介したい香りについて英語でまとめさせる。紹介する内容は、自分の好きな香り、好きな理由、その香りの効果など、とする。
- (イ) 実物、又は絵を準備させる。
- (ウ) 教師がモデルを示す。教師の Show and Tell に対して、生徒に質問をさせる。
- (エ) まずはペアで、次にグループで Show and Tell をさせる。
- (オ) 聞いている生徒には、発表後に必ず質問をさせたり、感想を述べさせたりする。

イ 留意点

- (ア) ワークシートに書いた文章を読むだけにならないよう、発表するときにはワークシートを見ないで発表させる。
- (イ) 聞いたことに関して必ず意見を言ったり、質問したりさせることで、「話す」こととの統合的な指導にする。
- (ウ) 発表内容に関しては、聞いている友人たちが知らないことを教えてあげるつもりで発表するように指導する。

「相手に伝える」ことを意識し、好きな香りについていろいろと調べたり、教科書に出てきた単語や聞いてわかるような易しい単語を用いたりしながら、何とか自分の伝えたいことを表現しようとする生徒が多かった。ワークシートを見ないで発表させたことで、生徒は言葉を付け足したり、ジェスチャーをしたりしながら発表しており、文の暗唱ではなく、自分の言葉で効果的に伝える活動になった。

<資料3>

Lesson 3 "Be, Ques' Dinner"
Part 4

Name: _____

1st Paragraph
Where was Bethany?
She was on the beach.

What would Bethany do?
She would go down to the beach and surf.

Draw the scene!

Imagine what happened! What did Bethany think? What did Bethany do?
She wanted to surf again.
She ran into the sea.

2nd Paragraph
Where was Bethany?
She was in the sea.

What was Bethany doing?
She was trying to surf.

Draw the scene!

<資料4>

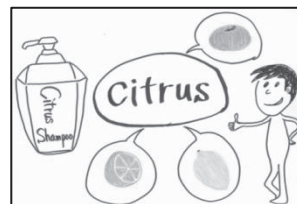
SHOW AND TELL

What is your favorite fragrance?
I like the smell of my shampoo.
It's citrus.

Why do you like the fragrance?
It makes me feel refreshed even when I'm very tired.

Where do the fragrance come from? / What is the fragrance made of?
The fragrance of citrus comes from fruits, for example lemon, orange and lime.
It's a natural fragrance.

What effect does the fragrance have?
The fragrance of citrus gives us new energy and cheer us up.
When you have sleepiness, your concentration is falling or you feel depressed, please smell the fragrance of citrus.
You feel refreshed!



事例9 自分を語る

ア 指導手順 (Lesson 4 の指導例)

- (ア) Part 3 に、Imagine you may never again be able to do the thing you love most. How do you feel? と主人公が問いかける文章がある。この問いに対する主人公の答えをワークシート <資料5> にまとめさせる。
- (イ) 同じ問いに対して、自分ならどのような答えを出し、どのように行動するか、その理由は何かを考えさせて、ワークシートにまとめさせる。
- (ウ) まずはペアで、次にグループで自分の意見を発表させる。
- (エ) 聞いている生徒には、発表後必ず感想を述べさせたり、質問をさせたりする。

イ 留意点

- (ア) 自分の考えをまとめるヒントになるよう、主人公の意見をまとめさせた後に自分の意見をまとめさせる。
- (イ) 聞いたことに関して必ず意見を述べたり、質問したりさせる。

レッスンの最後の活動として実施した。サメに襲われ、片腕をなくしても大好きなサーフィンをあきらめなかった少女の話が取り上げられているため、自分だったらどうかということを考えさせた。自分について考え、それを英語でまとめ、相手に伝えるという3段階の活動であったので、生徒にとって難易度が多少高い活動であったが、主人公と自分とを比較したり、ジェスチャーを用いたりして、工夫しながら取り組んでいた。どのようにしたら相手にとって分かりやすい発表になるかを意識できるようになったようだ。

<資料5>

Lesson4

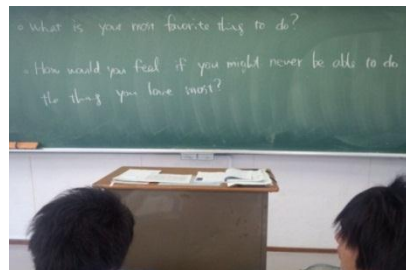
Imagine you may never again be able to do the thing you love most.
How would you feel? P50 line1-2

* In case of Bethany

- What is the thing that Bethany's loves most?
She loves surfing most.
- How did Bethany answer this question? And, why did Bethany feel that?
She answered that she felt sad, angry and shocked.
I think she felt sad and shocked because she might never surf again.
She felt angry because the tiger shark deprived only her of the dream.

* HOW ABOUT YOU?

- What is the thing that you love most?
I love soccer most.
- How would you feel if you might never be able to do the thing you love most?
And how would you behave?
I would feel very sad and shocked.
At first, there is no hope and I might never talk with people.
I would throw away everything that is concerned soccer.
But later, like Bethany, I would try to everything that enabled me to play soccer again.
I want to play soccer as long as I live.



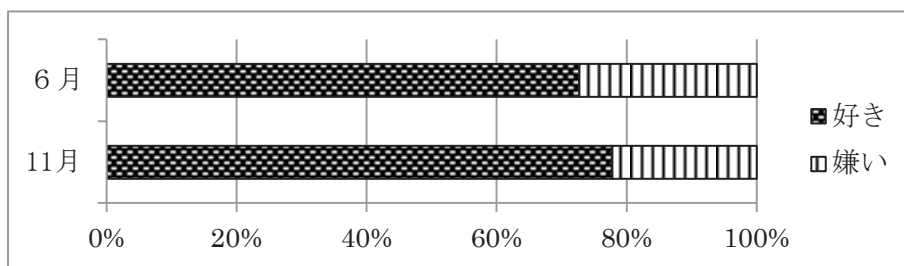
4 検証とまとめ

(1) 事後アンケートによる検証

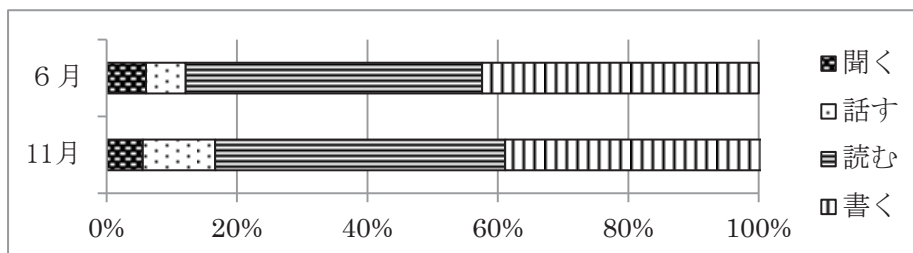
これまでの活動を通して生徒の意識がどのように変化したかを確認するために、事前アンケートと同じ内容のアンケートを実施した。

ア アンケート結果

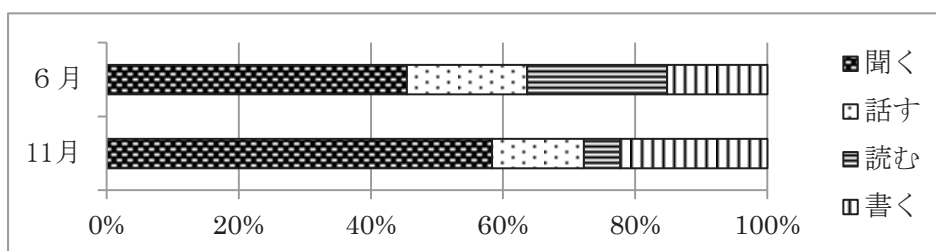
1 あなたは英語が好きですか？



2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なことは何ですか？

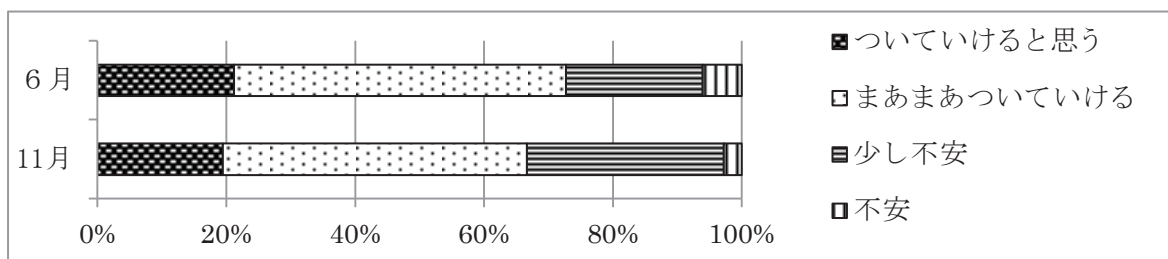


3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なことは何ですか？

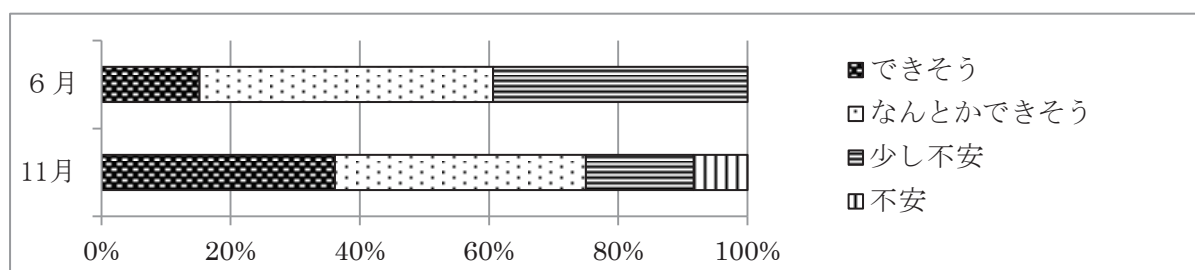


4 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするために授業を英語で行うことについて、あなたはどのように思いますか？

①先生がたくさん英語で質問したり、説明したり、指示をしたりすることについて。



②自分が英語で質問に答えたり、ペアワークをしたり、発表をしたり、意見を書いたりすることについて。



イ アンケート分析（6月と11月の比較）

アンケートの結果、英語を「好き」と回答している生徒が少しではあるが増加した。得意なことでは6月と同様に「読む」ことが44%で、最も多かった。「話す」ことが得意であると回答した生徒が、全体の数からすると少ないが、約2倍になった。一方、苦手なことは「聞く」と「書く」ことが増加した。授業で「聞く」場面を多く設定するよう心掛けてきたため、正確に聞き取らなければいけないという負担感を生徒に感じさせてしまったのではないかと考える。また、まとまった文章を書く活動が増えたため、自分が思うような文章が書けず、「書く」ことを苦手とってしまったのではないかと考える。

教師が英語を使用することに対して「ついていけると思う」「まあまあついていけると思う」と回答している生徒がやや減少した。「聞くこと」への苦手意識が増えたことと関連しているのではないかと推測できる。一方、4②の自分が英語を使用することに対しては「ついていけると思う」「まあまあついていけると思う」と回答する生徒が、61%から75%に増加した。生徒がペアワークなどを通して、英語で発話したり自分の意見を発表したりすることに対して前向きになっていることが分かった。

(2) まとめ

事前アンケートの結果を受けて、英語のインプット量を増やし、英語でのコミュニケーションに欠かせない「聞く」力を身に付けさせることを到達目標として実践を行ってきた。授業中に英語を使用する量が増えれば増えるほど、どのような形であれ生徒が英語を耳にする量は増えているはずなのだが、「聞く」ことが苦手と感じる生徒が増えてしまった。相手の言いたいことが正確に聞き取れない、教師の言うことが全て理解できないと苦手と感じてしまっているようである。完璧に正確に聞き取ることも大切であるが、相手の伝えたいことを理解しようとして積極的に聞く姿勢も大切であるという指導が必要であった。

聞き取ったことや読み取ったことに対して、自分の言葉で答えられる力や、自分なりの意見をもつことができるような力を身に付けさせるために、この研究の中で、発表の機会を2回設定した。発表に向けて、授業の中で本文の内容に関して、どう思うか、なぜそう思うのか、という問いかけを多く行った。生徒は今までのように訳せばそれでよいのではなく、その英文が伝えたいことを意識して英文を読むようになってきた。発表の準備でも、本文を何度も読み返したり、友人に相談したりしながら、英語で考え伝える努力をしていた。発表の後、「またやりたい」という意見がとても多く、理由を聞くと「達成感がある」「英語で考えるのは勉強になる」「自分も考えて発表の内容を作るので、周りの人がどんなふうに発表するかを聞きたい」というような意欲的なものが多かった。

授業中に英語を使用する場面を多く設定し、読んだり書いたりするだけでなく、聞いたり話したりする活動を意図的に実施することで、生徒は徐々に発話する量も増え発話の内容も充実してきている。そのような生徒の様子を見ていると、英語でのコミュニケーション力は伸長していると考えられる。生徒は、英問英答をはじめ、授業中の英語でのやりとりにもほとんど抵抗がなくなってきたようである。生徒のノートを見ると、今までは和訳と板書事項のみが書いてあったが、英語でやりとりをした箇所や、その際自分が分からなかった箇所などがチェックしてある。授業に取り組む姿勢も少しずつ変化してきたように思う。

今回実践してきた内容は、投げ込み式の大がかりな活動ではなく、日常的に実施したものが多

い。「英語で授業を行う」ということが強調して言われている。そのためには、教科書で扱われていることをベースに、教室を実際のコミュニケーションの場にして、生徒に英語を使わせることが大切な要素になる。これは、決して難しいことでも、高いハードルでもない、ということがこの研究を実践しての感想である。教師のちょっとしたアイデアがあれば、道具は黒板、チョーク、教科書、シンプルなワークシートだけで、生徒の英語でのコミュニケーションに対する意識を高めることができる。生徒は、英語を話せるようになりたい、話せるとかっこいいと少なからず思っている。授業中の生徒の様子を見ていると、その思いを上手に引き出し、学ぶ意欲を高めることが、「話す」力だけではなく、他の技能の伸長にもつながると考える。

生徒も教師も、授業中に英語を使うことは、多くの面でプラスになることがあると感じた。授業にめりはりもつき、何より生徒が積極的に主体的に学習に取り組む姿勢がでてきて、活気のある授業が展開できるようになった。今後も継続して、生徒の英語能力を伸長できるよう、生徒をいかに英語で活動させるかを考えた授業を実践していきたい。